

## 第 4 章 公共下水道(雨水)の 整備状況

1. 浸水被害の軽減
2. 雨水整備の状況

## 1. 浸水被害の軽減

都市型水害は、おもに都市域や都市周辺の開発が進んだ地域で多発する災害です。宅地化や道路舗装などが進んだために、地中に浸透する雨水の量が減り、各家の排水桝や道路の排水溝などから雨水管に流れ込む量が増えました。

また、近年では、地球環境の変化を受け、これまでの大雨の概念を超える局地的豪雨が増加する傾向にあります。このような想定を超える雨が降った場合には、局地的な浸水被害が発生する恐れもありますので、雨水排水ルート of 検証・検討やポンプ場の能力拡大、一時貯留施設などの整備を推進することにより、浸水被害の軽減を図ることが必要となっています。

## 2. 雨水整備の状況

浸水被害の頻度が高い地域を中心に幹線や支線水路、雨水管渠などの整備を10カ年計画に基づき進めており、現在、主要な管渠（幹線管渠）の計画延長約100kmのうち、10年確率降雨に対応出来る排水能力がある管渠の整備率は約4割となっています。

本市では、平成8年度より10年に1度の降雨（時間降雨量54.4mm/h）に対応できるよう、雨水排水計画を策定し整備を順次進めています。

また、雨水幹線の整備にあたっては、幹線水路や暗渠の上部空間を都市の貴重なオープンスペースとして位置づけ、親水性にあふれた空間づくりにも努めています。

また、降った雨を河川に排除するために市内に9か所の雨水ポンプ場を備えており、一定規模以上の雨が降ったときには、これらのポンプを運転し雨水を排除しています。このため、市内の雨水管渠が整備されたとしてもポンプ場の機能が脆弱では、河川に効果的に排除できないので、ポンプの機能整備を優先します。

### 【主要な幹線管渠の整備状況】

番号	排水区	延長(m)	流下確保(m)	流下断面確保率	番号	排水区	延長(m)	流下確保(m)	流下断面確保率
1	楠葉	6,101	2,704	44%	12	津田	951	112	12%
2	車谷川	1,085	360	33%	13	安居	754	754	100%
3	八田川	1,478	803	54%	14	新安居	2,222	1,203	54%
4	藤本川	6,589	3,166	48%	15	犬田	2,600	1,690	65%
5	鎮守川	2,584	249	10%	16	申田川	78	78	100%
6	長尾	4,533	1,417	31%	17	蹠跽	12,351	8,527	69%
7	黒田川	23,738	10,372	44%	18	香里	5,397	1,183	22%
8	前田川	6,051	1,287	21%	19	小川	3,004	1,293	43%
9	穂谷川	7,118	1,035	15%	20	深谷	2,136	2,071	97%
10	溝谷川	3,816	2,889	76%	21	北谷川	385	167	43%
11	野々田川	7,007	3,341	48%	合計		99,978	44,751	45%

【平成24年度末現在】